

すぽっとライト

NO. 37

四国運輸局では、消費者ニーズや消費者行政上の課題を把握し、その結果を行政に役立てていくことを目的として公共交通機関の利用者等を対象にインタビューを行っています。

今回は、補聴器などを使っている聴覚に障がいのある難聴者が音声を聞き取りやすくするための「磁気ループ」と呼ばれる装置を高松市の補助を受けて四国で初めて路線バスに設置した「香川県難聴児（者）親の会」会長の鎌田浩二さんと今回設置された路線バスの運行事業者（ことでんバス株式会社）執行役員の小西太さんにお話しを伺いました。

※) 磁気ループ：音声信号を電気信号に変え、ループアンテナ誘導磁界を発生させる磁気誘導無線システムのこと。補聴器などを付けた難聴者が騒音の大きな車内でも音声案内や運転手の声が聞き取りやすくなる。最近の劇場や会議室等にも設置されはじめている。



磁気ループをバスに取り入れたきっかけや今後の導入予定などについてお聞かせください。

「全国難聴児を持つ親の会」の副会長をさせて頂いている関係もあって、磁気ループを取り入れたバスがあることは、全国の情報として聞いていました。

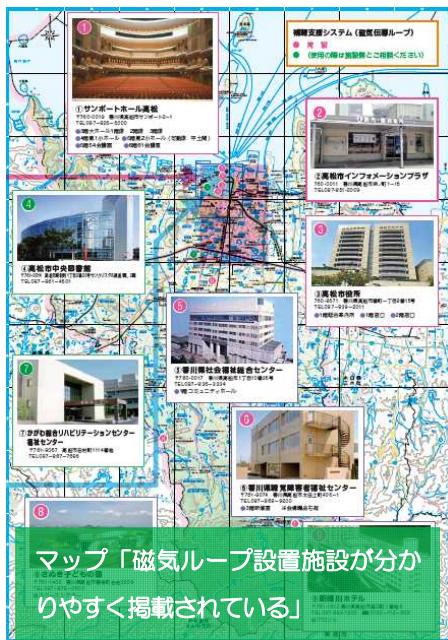
難聴者ることは、一般的に手話を連想される方が多いと思いますが、補聴器や人工内耳の進歩によって、手話の出来ない難聴者が増加しているのをご存知でしょうか。例えば、90デシベルの音でないと聞こえない難聴のお子さんが生まれたとしますよ

う。昔は手話を覚えないとコミュニケーションが出来ませんでしたが、30年前に人口内耳が医療機器として認定されて以降、装用者の増加と難聴児への装用が増え、それに付随して補聴器の性能もどんどん進歩してきました。加えて、新生児スクリーニングによって、お子さんが生まれてすぐに難聴かどうかが判るようになっています。人工内耳は手術を要しますが、手術も年々低年齢化し、生まれて1年後には手術が出来るまでになっています。補聴器であれ人工内耳であれ、小さいうちに早く音を入れることによって、言葉や聞こえなどが習得出来るようになることや、手話が出来る親ばかりだと手話によるコミニ



全国難聴児を持つ親の会 副会長

香川県難聴児(者)親の会 会長 鎌田浩二さん



ュケーションをしていくことも選択肢としてあるのでしょうかけれど、補聴器などで言葉や聞こえなどを伸ばしていくという流れになって、結果として手話の出来ない難聴者が増加しているのが現状です。聴覚障がい者は、一般的に音声によって提供される情報や会話を理解できませんでしたので、これまでには日常的に情報から疎外されていました。補聴器や人口内耳の進歩や普及によって、視覚的情報だけでなく、音声を直接補装具などに伝える技術等で視覚聴覚両面からの情報保障が行われることは、人間の「知る権利」を保障するものです。今年2月には障害者の権利条約が批准され、近く実施されることになっています。手話の出来ない難聴者には、聞く音、見るもので情報を

正確に伝えなければならないということですが、環境の悪いところでは情報が正確に伝わらず、結果として社会からの疎外感や引きこもり、いじめの問題にも発展していくことになります。必要な音や言葉をいかにして正確に、そして直接伝えていくかということですが、聴覚障がい者の自立を促すためにも、街自体の環境整備も必要になってきますし、少しでも街に出れる環境をつくることがまず必要と考え、情報保障を展開出来るバスに乗ってもらおうと考えたのがきっかけです。

今回は、高松市との協働企画提案事業ということで、7月13日（日）の磁気ループを設置した路線バスの運行開始に合わせて、マップの配布も予定しています。観光ガイドマップの磁気ループ版のようなもので、磁気ループを設置した「ショッピング・レインボーリンバス」と市街地循環バス「まちバス」の2系統のルート図と時刻表のほか、高松市内に限定させて頂いてはいるのですが、磁気ループが設置されている施設等も掲載しています。また、設置バスには「耳マーク」（右）と「磁気伝導ループ設置マーク」（左）を貼付けて、バス停で待っている利用者の方が見えるようにしているほか、市内の設置施設等にも貼付けるようにしています。

今後の導入予定など具体的な計画は未だありませんが、路線や便のほか座席に限定されないようにバス全体に設置するのがベストだ





と思いますし、例えば優先座席には磁気ループも全て設置されているような取り組みも必要ではないかと思っています。また、観光バスにも全席磁気ループが設置されていると旅行の道中も楽しめて利用者も増えると思いますし、タクシーへの設置も考えられます。

❸ 路線バスへ磁気ループを取り入れることについて全国でもあまり例がないと聞いていますが、ご苦労されたことはござりますか。

バスの配車は、路線が変更になったり修理や車検などで使用出来ないこともあります。循環型路線への導入ですので、バスを差し替える必要が生じた時にも対処出来るよう、いつでも取り外して持ち運び可能な携帯型のものを設置しようと考えていました。実際に設置した時に分かった事ですが、バス側の電源の問題や音声を引き出す装置の不具合もあって、簡単に移設することが出来ないと分かりました。磁気ループは家庭用の機器なので、バスの電源を変換させるためのコンバーターが必要になってきます。このコンバーターを設置するためにはペースメーカーなどの医療機器に影響を与えてはいけませんので、正弦波タイプのコンバーターを設置しなければならないことも判りました。ことでんバスさんの協力で、磁気ループを設置するバスを固定化し移設しなくてもよいように運行してくれることになりましたが、修理等が発生した場合の代替バスの問題はありますし、何より費用面でかなり厳しい状況になり、現在も頭を悩ませています。



❹ 香川県難聴児（者）親の会では普段どのような活動をされていますか。

親の会の構成は現在44家族です。人工内耳の方が4割、補聴器の方が6割で、年齢は3歳から大学2年生までとなっています。保護者の会ではありますが、本人が社会人になっても希望すれば受け入れ出来るように「・・・難聴児（者）・・・」としています。

これまでの活動と言いますか主な取り組みですが、私どもの会自体は「ろう学校」に通っているお子さんがほとんどいません。それぞれの学校の特別支援学級で同級生に同じ難聴の友達がいないということで、子供達や保護者の方々の情報交換や交流の場を提供して、お互いが元気になっていこうというのが主な活動であり目的でもあります。

その他、補聴器の購入助成制度が障害者手帳所持者に限定されていて、70デシベル以上で手帳の交付を受けますが、お子さんによっては50とか60デシベルという方もいらっしゃいます。手帳交付の条件はクリア出来ないけれど、成長期における言語能

力の健全な発達やコミュニケーション力の向上をご心配されるのは当然のことです。小さいお子さんの聞こえであったり、いかに早い時期に補聴器などを使って音を伝えるかを考えて補聴器を購入しても助成が受けられないのはおかしいということで、平成24年に行政に対して要望書等を提出し、平成25年度から軽度・中等度の聴覚レベルの方に対しても（条件や医師の所見も必要ではありますが・・・）補聴器の購入助成が受けられるようになりました。

● 今回の路線バスへの導入によって、一度に何人くらいカバーできるのでしょうか。

今回は、高松市との協働企画提案事業ということで、限られた予算の中で実施している関係もあります。装置のほかにステッカーやマップの制作費用もその中に賄わないといけません。コンバーターの費用も追加で必要となってきたこともあって、もう少し性能の良い装置を設置したかったのが本音です。実際に試した限りでは、設置座席の後方席とその後方席の2席と周辺の立ち席の3名がカバー出来るようでした。座席の形状（2列シート



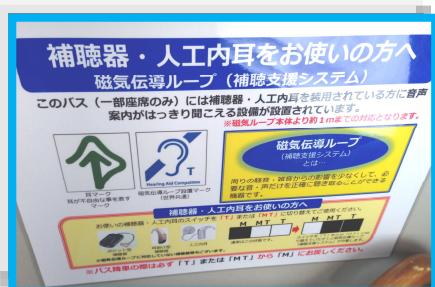
7月13日運用開始日の様子

など）によってはもう少し多くの人をカバーすることが出来るかもしれません、今回設置した装置は、高松市に設置した受付カウンター用の装置と同じものです。対面の短い距離で対応する専用装置で出力も弱いため、設置場所付近どこでも対応出来ていると誤解されないように「一部座席のみ」とすることにしています。

● 費用総額はどれくらいかかりますか。また、本来のバス用装置（全席対応）を路線バスに入れられている事例をご存知であればお聞かせください。

装置本体は1個3万円です。コンバーターが約2万円と工賃が別途必要となります。その他、ステッカーやマップなども合わせて約40万円になり、予算をオーバーしています。

千葉市や山口市などでは、全席対応の磁気ループを通常の市内循環バスに取り入れていると聞いています。



今回「ショッピング・レインボー循環バス」と丸亀町商店街振興組合が運営する「まちバス」の合計6台に導入されると伺っていますが、循環バス東・西廻り合わせて72便（土日祝日等は60便）ありますが、対応車で何便かバーカー出来るのでしょうか。「まちバス」について教えてください。

（小西さん）

「ショッピング・レインボー循環バス」に4台（東廻りと西廻りに各2台）と「まちバス」に2台導入します



西廻り（反時計廻り）▲印：土日祝12/29～1/3運休

す。「まちバス」につきましては、運行している全便が対応車となりますし、「ショッピング・レインボー循環バス」につきましては全便のうち48便（土日祝日等は38便）が対応車となります。対応車の運行する便が決まっていますので、利用者は磁気ループが設置されたバスを選択した利用をすることが出来るようになっています。

インタビュー実施日：平成26年7月11日（金）・聞き手：秋山、北地